

万国医療津梁協議会 北京ミッション出張報告

平成23年8月18日
内閣府沖縄総合事務局
経済産業部

1. 趣旨・目的

沖縄における国際医療交流を推進することを目的として本年6月に設立された万国医療津梁協議会（会長：国立大学法人琉球大学学長岩政輝男氏）は、初の海外ミッションを北京に派遣し、地元旅行社、マスコミ、経済団体等を対象としたセミナー等を実施するとともに、中国国家機関、医療機関等を訪問し、連携・協力関係の構築に着手した。沖縄総合事務局は、新産業創出による沖縄振興の観点から、山内経済産業部長他が本ミッションに同行し、中国国家機関及び日本政府関係機関への橋渡しに係る支援を行った。

2. 日程概要

平成23年8月7日(日)～10日(水) 計4日間

[1日目] 沖縄発→羽田・成田→北京着

[2日目] (午前) 中国国务院衛生部との意見交換、PRセミナー
(午後) 中国国家旅遊局、中日友好医院との意見交換

[3日目] (午前) 在中国日本国大使館、日本政府観光局北京事務所訪問等
(午後) 北京市旅遊発展委員会、医療機関等との意見交換

[4日目] 北京発→成田・羽田→沖縄着

3. ミッション団の主な構成員

内閣府沖縄総合事務局経済産業部 山内部長

<団長> 財団法人沖縄観光コンベンションビューロー 上運天常務理事

一般財団法人貿易研修センター 赤津専務理事

国際医療福祉大学大学院 岡村准教授

医療法人友愛会豊見城中央病院 潮平院長、城間副院長

医療法人タピック 宮里理事長

株式会社Tripod 玉城社長

万国医療津梁協議会 石原ネットワークマネージャー

株式会社おきぎん経済研究所 等

4. 北京セミナーの概要

※ 北京市の医療関係者、旅行業関係者、日系企業等約130名が来場。日系取材メディアとして、共同通信社及びNNA社が参加。

- (1) 基調講演 獨協医科大学医学博士 史 常德氏「美しい島、安心な医療 ～日本・沖縄～」
- (2) 沖縄側プレゼンテーション
 - ・(株)Tripod 代表取締役社長 玉城清酬氏 (医師)「沖縄で健診・検診サービスの提供」
 - ・医療法人友愛会豊見城中央病院副院長 城間寛氏
「直腸・結腸癌に対する FDG-PET 検査の有用性」
 - ・医療法人タピック理事長 宮里好一氏
「リハビリサービスの提供 ～沖縄におけるリハビリ医療の活用のお勧め～」
 - ・医療法人友愛会豊見城中央病院院長 潮平芳樹氏 「医療の国際化」
- (3) 参加者アンケートから主な意見
 - ・日本の医療は親切なので今後需要が高まると思う。(旅行関係者)
 - ・沖縄はとても美しいので、沖縄での医療観光は心身ともリラックスできると思う。(会社員)
 - ・よく行き届いている。とても気に入った。受けてみたい。(医療関係者)
 - ・PET 検診は魅力的だ。(旅行関係者)
 - ・健診・検診後は医療報告のほかに生活指導・健康指導なども行ってほしい。(医療関係者)
 - ・中国国内にもほぼ同じサービスはある。(旅行社)

5. 訪問先における主な発言等

- (1) 国務院衛生部
 - ・沖縄の取り組みは非常に有意義。
 - ・衛生部としてもお手伝いできることがあれば努力したい。
- (2) 国家旅遊局
 - ・日中間の観光分野の協力は重要。
 - ・医療観光は潜在力があると考えている。ストレス社会においては癒しの旅は必要。
 - ・日本の医療は優れていると認識。
- (3) 国務院衛生部中日友好医院
 - ・平均入院期間は3週間程度で、その後は在宅でのリハビリとなる。
 - ・中国人患者に対して沖縄の病院を紹介することは可能。
 - ・(医療等に対する) 沖縄研修は可能だろう。希望者もいるだろう。人材交流は大事。
 - ・交流促進のための MOU の締結等への対応は、提案があったときに検討したい。
- (4) 在中国日本大使館
 - ・沖縄との交流が中国側にとってどういうメリットがあるのか整理して伝えることが大事。
- (5) 日本政府観光局北京事務所
 - ・沖縄の取り組みは先進的。
 - ・中国の病院はハード的には十分だが、技術とサービスのソフト面が追い付いていない。
 - ・沖縄を重点プロモーション地域として取り扱っていききたい。
- (6) 北京市旅遊発展委員会
 - ・リハビリ観光は素晴らしいアイデア。可能な限り協力していききたい。
 - ・北京－沖縄関係については、今後(関係強化に)努力していききたい。

(7) United Family Hospital (和睦家医療集団・北京和睦家医院)

- ・リハビリ専門の病院を建てる予定があり、沖縄のリハビリ医療に大変な興味を持った。
- ・中国ではリハビリの医師が不足しており、日本の病院と連携したいと考えている。
- ・沖縄でリハビリを行うことも可能。(病院間提携ができ、信頼関係が構築されれば) 将来的には患者を送ることも可能。

6. 今次ミッションの主な成果

- ・万国医療津梁に関し、県や関係機関等との連携により政策として推進していることを強調。総じて今回のミッションは成功。
- ・中国は、急激な経済発展により、豊かな層が急増中であり、健康への関心も急拡大していること、経済発展に伴うストレスも拡大傾向にあり、癒しを求める人が増えていること等から医療観光に対する潜在需要はかなりある。中国人との万国医療津梁の可能性はかなり高い。
- ・とりわけ、リハビリテーションについては、中国国内での圧倒的な専門医師の不足、医療技術の低さ等から沖縄の可能性の高さを指摘する意見が多く聞かれたほか、関心を寄せる医療従事者も多数見受けられた。
- ・リハビリテーションを中心として、医療提携を希望する医療機関等もあり、今後、具体的な提案を行うなど、医療交流に向けた継続的な交渉が必要。
- ・人材育成についても、沖縄との交流を希望する意見も聞かれたことから、県内関係者の意向確認、具体的な交流策等を具体化し、中国側に提案する必要がある。
- ・今後、沖縄からの提案、中国からの提案等について摺り合わせを行い、第2回ミッションに向けて、医療機関の協力関係構築(可能な限りMOU締結を目指す)に向けた調整を本格化する必要がある。

万国医療津梁協議会 第1回北京ミッション団 日程

8月7日（日）		8月8日（月）		8月9日（火）		8月10日（水）	
0930	那覇空港集合	0700	スタッフ集合@長富宮飯店セミナー会場	0845	当日日程ブリーフィング@長富宮飯店ロビー	0600	ホテル、チェックアウト
1040	那覇空港発 ↓	0800	全員集合@長富宮飯店セミナー会場	1000	在中日本大使館訪問	0825	北京空港発 ↓（以下、日本時間）
1315	成田空港着	0900	セミナー開場	1055	日本政府観光局北京事務所訪問	1255	成田空港着～解団式 ↓ バス移動
1600	結団式@成田空港ラウンジ	0930	セミナー開会 ↓	1430	北京市旅遊発展委員会訪問	1500	羽田空港着
1815	成田空港発 ↓（以下、現地時間）	1215	セミナー終了	1500	北京神舟方舟国際会議展覽有限公司訪問	1600	羽田空港発 ↓
2215	北京空港着	1515	中国国家旅遊局訪問	1600	北京和睦家医院訪問	1830	那覇空港着
2330	ホテル、チェックイン	1630	中国国家衛生部中日友好医院訪問				
		1900	中国国家旅遊局主催晩餐会@釣魚台				

訪問団一行名簿

参考

No.	機関・団体・企業名等	役職	氏名
1	内閣府沖縄総合事務局	経済産業部長	山内 徹
2	財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	常務理事	上運天 昂
3	一般財団法人貿易研修センター	専務理事	赤津 光一郎
4	医療法人友愛会豊見城中央病院	院長	潮平 芳樹
5	医療法人友愛会豊見城中央病院	副院長	城間 寛
6	医療法人タピック沖縄リハビリテーションセンター病院	理事長	宮里 好一
7	株式会社Tripod	代表取締役	玉城 清酬
8	学校法人国際医療福祉大学	准教授	岡村 世里奈
9	株式会社Tripod	取締役	友利 博朗
10	株式会社Tripod	取締役	元田 聡
11	株式会社Tripod	取締役	岩村 比呂彦
12	株式会社Tripod	取締役	史 常德
13	株式会社Tripod	部長	與那覇 正義
14	株式会社Tripod	事務局長	前里 勝也
15	株式会社Tripod	通訳	當山 清忠
16	株式会社Tripod	通訳	孫 静
17	株式会社Tripod		眞栄田 祐哉
18	株式会社Tripod		李 善保
19	医療法人タピックやはら万国クリニック／日本亜健康研究所	未病・亜健康医学センター長／医学博士／所長	柯 彬
20	沖縄ツurisT株式会社	国際事業本部国際部チーフ	加藤 新吾
21	JTA 商事株式会社	代表取締役常務	金城 彰
22	JTA 商事株式会社	旅行事業部商品企画2課主任	前城 美琳
23	株式会社ホット沖縄力又チャリポート	セールスマーケティング部係長	山城 重則
24	株式会社ホット沖縄力又チャリポート	セールスマーケティング部	島尻 吉之
25	内閣府沖縄総合事務局	企画振興課課長補佐	太田 浩一
26	株式会社おきぎん経済研究所	研究員	上地 良平
27	株式会社おきぎん経済研究所	PM	洲鎌 孝
28	財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	受入推進部部長	下地 貴子
29	財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	N M	石原 守次郎
30	株式会社FU JITA	代表取締役社長	藤田 賢
31	株式会社FU JITA	代表取締役副社長	古田 修嗣
32	株式会社FU JITA	5	後藤田 美幸
33	株式会社FU JITA		野々山 佳代子

万国医療津梁協議会の設立について

平成23年8月
内閣府沖縄総合事務局
経済産業部

1. 背景

沖縄総合事務局経済産業部は、平成22年3月に取りまとめた「沖縄地域経済産業ビジョン-中間報告-」において、今後強化すべき産業分野の一つとして「沖縄ウェルネス産業」を位置づけ、同年11月、「沖縄ウェルネス産業研究会報告書（座長：国立大学法人琉球大学長 岩政 輝男）」により沖縄における国際医療交流のあり方等を示した。同研究会報告書では、沖縄独自の国際医療交流として「万国医療津梁」という呼称を提案するとともに、達成すべき目標と具体的な施策を提示し、それを成し遂げるための推進機関の設置の必要性が提言された。

この様な政策提言を受け、医療と観光が融合した新たな産業創出のため、「平成23年度地域企業立地促進等事業費補助金（沖縄地域国際医療交流ネットワーク活動事業）」を活用しつつ、（財）沖縄観光コンベンションビューローを事務局とした産医学官連携によるネットワーク活動の受け皿となる「万国医療津梁協議会」が設立された。

2. 設立年月日

平成23年6月20日（月）

3. 目的

協議会は、沖縄が国内外における医療人材の育成・交流等を通じた国際貢献も念頭においた沖縄における国際医療交流「万国医療津梁」を推進することにより、沖縄地域における経済の活性化及び観光の高度化に資することを目的とする。

4. 役員

会長 岩政 輝男（国立大学法人琉球大学 学長）
副会長 知念 榮治（社団法人沖縄県経営者協会 会長）
副会長 東 良和（一般財団法人日本旅行業協会 理事兼沖縄支部長）
副会長 安里 繁信（財団法人沖縄観光コンベンションビューロー 会長）

5. 会員（平成23年8月16日現在）

74機関（医療機関、ホテル会社、旅行会社等）

6. 事務局

財団法人沖縄観光コンベンションビューロー

7. 今年度の取組内容

- (1) 関係者を網羅したネットワークの構築及び国内他地域との連携構築
- (2) 情報発信（ウェブサイトの構築等）
- (3) 提供メニューの開発（観光と医療が融合した新たなメニューの開発）
- (4) 海外医療機関等との連携構築（国際医療交流に取り組む海外医療機関等とのネットワーク構築支援、相互協定締結等のためのミッション団派遣等）
- (5) 沖縄独自の国際医療交流に関する制度提言等